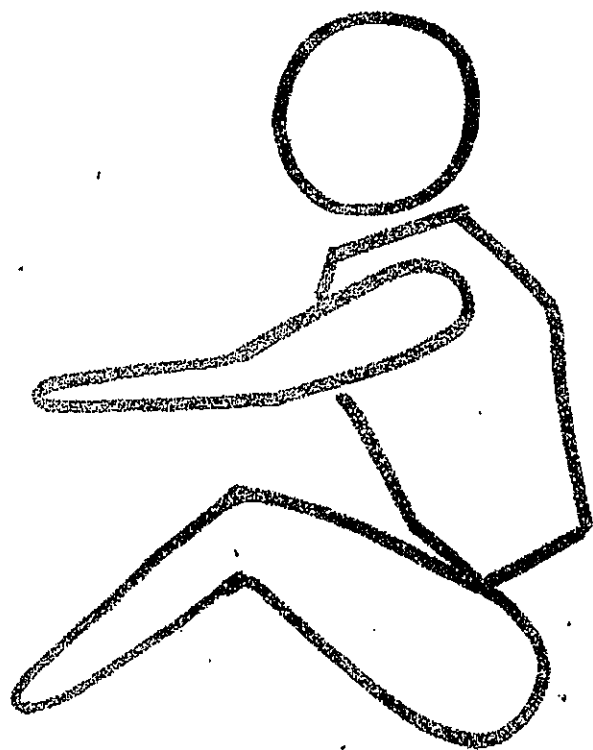


# 漕 魂



創刊号 昭和五十一年度

長崎大学医学部潜水部

長崎大学医学部潜艇部

- ① 長崎大学医学部潜艇部沿革
- ② 昭和49年度新艇購入の件について
- ③ 「部誌創刊を記念して」  
潜艇部長 眼科教授 高久功氏
- ④ 「ラストヘビー」  
潜艇部先輩 木谷郁博氏
- ⑤ 「今年の潜艇部の抱負」  
潜艇部主将 出口正己
- ⑥ 潜艇部近況報告並びに艇庫、艇ホールの状況
- ⑦ 潜艇部員の感想
- ⑧ 潜艇部員の体力測定表
- ⑨ 潜艇部昨年度の試合成績
- ⑩ 潜艇部関係者名簿
- ⑪ 潜艇部本年度試合日程
- ⑫ 編集後記

医学部漕艇部沿革

戦前、医科大學当時、時津海岸に艇庫、端艇3隻を持ち、旧長崎高商との定期戦、医科大海上運動会等に活躍。戦争を経て、一時中断した漕艇部も昭和25年頃、木谷郁博氏、石橋盟士氏等々の方々により一時復活するも後統なく、艇庫も消失。

昭和47年3月15日、丹羽正美氏、朝戸須江天氏、田川泰氏等を中心とする医学部専門課程学生15名へ顧問に村上文也先生に依り、漕艇部が再建された。木谷郁博氏よりオール組へ四本の寄贈をうけ、さらに自艇がなれた。県漕艇協会の御好意により、協会所有艇の中よりナックルフォア一艇借用し活動開始。

同年8月、西日本医科学学生総体・漕艇部門に初出場。力及ばず選敗退。漕艇部一艇のみでは練習活動に支障をきたして高まり、この頃より新艇購入の気運が高まる。

昭和48年11月、新艇購入の為、発起人昭名(宮城重信氏会長)により新艇購入委員会が設立され、翌年1月10日より募金活動開始。

昭和49年4月1日、滋賀県桑原造船工所にて艇1隻(ナックルフォア)を購入。昭名氏各一隻、総計16万2千円。

同年5月11日、新艇2隻長崎着。時津子々川長大臨海研究所に艇庫をおき保管。

同年9月、漕艇部顧問教官村上文也先生退官後、眼科高久功先生を顧問に迎えぬ。

# 長大医学部ボート部誌創刊を記念して

漕艇部部长

眼科教授 高久功

私が長崎に着任したのは昭和44年の一月であつた。長い夜行列車の旅の後、眼前に広がる大村湾をながめ、こんな良い海があるのかと感嘆した。

その当時長崎におけるボートがどの様な状態であつたのか知らなかつたが、朝の冬の海の印象は、私が何十年と漕ぎ親しんでいた松島湾に比して強烈であつた。

その年が確か長崎国体であり、東北地方の各県のクルーが続々と集まり、旧知の力々の接待にまだ長崎の地理も知らない身で大変だつた思い出がある。琴海のボートコースも訪れ、また大村湾上で停泊するいくつかのクルーを眺める機会が増えるにつれ、大学に、また医学部にどうしてボート部がないのかと悲しんだこともあつた。

その後、学生諸君、また先輩各位の御努力で医学部にボート部も出来上り新艇も購入され村上先生が顧問につかれ、私もいくらかの御手伝いをする事となつたが、実際は何の役にも立たず、また村上先生の御退官後は顧問となり、未だに充分責をはたすことが出来ないでいる。学生諸君とつき合ひが深くなると共にボートの漕法などのことで相談をうけることも増えてきた。

私がボートを漕ぎはじめの頃、フェアバイン漕法というのが生れた。要するに「その当時迄の大きなボテイモーションは無意味であり、脚を便つて」という近代ボート漕法の創始者であつた。この考え方はその後一般に認められ、私共もストレッチャーを長くしたり、オールの長さを変えたり、いろいろと解析を行なつたものであつた。漕ぐ原動力は肉体であり、そ

動きを直接オールのスピードに効率よく伝  
えること。この妨げになる余計な運動を  
除くことが漕法の根本であるから、各漕者  
各々一ごとに漕法は考えられるものであ  
り、最良の漕法とは永遠に彼岸のもので  
あるように思う。

かつて、カールアダム氏やウィブゲ氏とい  
う海外の有名コーチが来日され、講演があ  
った。この様な方の御話では漕法の話は全  
くなく、体力訓練の実際がその中心であ  
ったことを思い出す。「体力はメートル、漕法  
はセンチメートル」と云われるのが、ボートで  
必要なのはやはり基本的体力の養成で  
あるように思われる。一定の短時間に最大  
のエネルギーの持続を必要とするボートに  
おいて、筋力の発達も重要であるが、特に  
酸素欠乏状態においての順応を高めるこ  
とがより重要である。この事は、去年の  
オリンピック出場候補として残っている東

北大クルーに対して日漕からの指導に  
強く指適されていていることである。

簡単に云えば、オールが合い、バランスが  
れて無駄なモーションがなく、充分確実  
に山をつかみ、充分早くオールを引くこ  
ができれば、漕法は高いピッチで長  
離でもいかにくすねないだけの練習  
むごとくできれば、練習はさらに基本  
的体力の向上、特に無酸素訓練、  
三者の総合の上に強い速いクルーが生  
れると云えよう。

医学部学生諸君であるから、生理  
の教える所からより合理的な訓練方  
が考えられることを期待している。

ラストヘビー

長大医第一回卒業生

木谷郁博

明治43年長崎県立長崎中学校入学  
以来約10年間、大正7年長崎医学専門  
学校漕艇部シーズンオフまで尻と手  
の平にマメを欠かさなかつた私の父は、  
生きてれば今年80才。奇しくも命から  
二番目に想つたレースボートの人も知る  
チャンピオンとしてこの長中と医専(そ  
の後長崎医科大学に昇格、現長崎大  
医)のかたつとも、同時に同窓会々長を  
併任した。そしてその子たる私も、蛙の  
子で長中、高校、医大の漕艇部に身を  
投ずる破目となり、再び約10年間、選  
手を務めて来、猶、長大医同窓会常  
任理事を任せらる。父との相異はシー  
トが父は運送屋の千番、私は3番で  
終始した、ことであろう。親子二代に亘り

飽き、おしなないで浪に揉まれ、潮に打た  
れたものだが、御時世とは謂え種々喜  
情も重なり、鷗の港から完くボートの  
影が消え失せて終つたことは、こよな  
く海を溺愛したボートマンにとって、何  
にも増して悲しく淋しいことである。

琵琶湖遠征の折、以前の高尙のボ  
ートを短時間拝借し、ヘルメット姿の  
父を混えてのスタートダッシュの特訓  
ど、今となっては大変懐しい思い出とな  
た。確か「有明」と謂うフィックスのシ  
クスだった。琵琶湖に着いて4、5日練  
習したが、太湖汽船の箱舟遊覧船が  
波もない鏡の湖面に一隻走っていて、  
長崎港を自由に漕ぎまわっていた私達  
クルーの眼には出船入船の萬噸クラ  
スを見馴れたせいか、実に淋しい風景  
だったのか印象的であった。それがどう  
だろう。今日の長崎港も、出船入船

の影失せて、独り五島フェリーがホイッスルしているばかりである。亦、海を許り練習して来たクルーが、河や湖では全くお手挙げの状態で試合に望む事となり、結果は極めて不快なものとなる。浮力と走力にアンバランスが甚しいので、この淋しい二つの宿命を将来半永久的に背負わなければならぬ我が愛しの後輩諸君に、私は早くからお気の毒と同情している。出来得可くくば、だ。ストレス解消ではなく、ストレスを勝ち獲り度くばだ。海で漕ぐのは止めなさい。如何に上手にマメを捲いても、戸田コースや日田川や隅田川でのしかッパを夢見るなけれど。之を総てが異質との斗いにする。漕いでも漕いでも、艇速はかた落ちし、疲労困憊その局だ。

昭和25年夏、父と時津の墓に参った

歸りに、父達も記念に寄贈した医大の跡に立寄った。昭和元禄の支那事変に即ち医大早格記念の時津に漕艇部の庫と、スライディング艇3隻、阿蘇、雲仙。他にヨット4艇。当時としては明瞭な漕艇設備だった。O.Bの始漕式の他、教職員の対抗レース。  
国破れて山河あり。終戦後の艇庫は佇んで、唯涙しか出なかった。足元に熱い所となごている為か、露天に鉋屑だけ八畳位の広さで、胸の高さまで積み上げある。心とその一部から、それこそ千と一遇の好機や逸せずとの思いか。何かあった。オールの端が千ら。変色した鉋の底の泥まみれの中で。狂気した私には頭から木っ端をかぶってカ斗一時眩余。半ば腐りかけたあの阿蘇が、雲か、そして殆ど原型のまままで底に穴か30個許り空いた懐しの霧島が出て来

たのである。オイルもあるにはあった。か  
ブレードは欠け、裂け、折れてぞくぞく  
と掘された。皮具は湿気と泥でググ  
クの水腫。金具は流石シンチウ製で  
充分使えた。時が流れ、今はレントゲン  
教室の側に純白のパンキで化粧した  
霧島が横たわり、満潮の浦上川進水式を  
待っていた。必要な馬車移送費その他一切  
は私が夏休み中で負担した。感激の唄声は  
戦後初めて製鋼所前の川面にこたまし  
た。仲間達と共にパテたらけの艇は見  
送りの応援団を箱左橋に土手に残り  
して、大波止沖を往く。少々艇底に  
湧水はして来たが、戦後時津から長崎港  
へではあったが、第一期生アルバムにもある  
通り、立派に漕艇部は復活したのである。  
この後原稿にスペースがないと思われ  
るので短くするが、時の医、寺島事務長から

キジア台風、風水害にて艇庫破損の夕  
目にて、時津艇庫がスレート葺きを復元  
した。そこへ大村の薬学部ヨットの二団が、  
教授に率いられてマシラの如く、艇庫占拠。  
ホートもオイルも何もかも合宿用薪と  
鋸とサクサク。

理由も何も知らない輩の眼中には、父の時  
戦死された教多くの長大医漕出身の軍医  
さん達による、この歴史的医大漕艇部財産  
なかつた。一片の学友会財産処分法に依る  
話し合いも結着も持たないで蹂躪された  
知らなかつた悪かつたのは相済まされる問題  
はないことを肝に銘じなければならぬ。  
皆殺しにしてやろうかと幾晩も考えたが、  
長崎大学統合新制度発足の折りにあり  
今日迄涙をのんでいる次第である。結論を  
急ごう。「ヨットマンに注意せよ」即ちヨッ  
トが通れない水面をしかせ川で、入学に近



管理至便な場所は、わざわざ村松さん  
がいまして、この危険多い交通状況下にしかも  
暗く、ひもしい諸君等が、最も大切な時間  
を浪費して、出向くのは、可哀想である。

総てに力無き学生、夢多き青春時代は  
今日、政治力に依って左右され続け、半は  
諦めのうちに卒業し去る。

紙料な諸君の清冷なオールダッシュは、  
何処でイーシオールを迎えるのだろう。

私は古くから、独り考える、あの製鋼所  
直上の浦上川を築町浜町付近同様、捷  
堤積上げをなし、大橋付近の水位を今より

二米も増位出来ないものであろうかと。  
市民プール、陸上競技場等々、スポーツ施設

に溢れる大橋、駒場一帯をもう一足、浦  
上川まで広げる訳にはゆかぬかと。大橋で

増位二米は五厘橋を一体、河米土手、切  
りが必要かと。仮りに実現したと考えると、

見給え、長八匠の兄貴の監督下に、活水  
北高、洞中三菱、西高等々、ボートマンたらん  
二軍は続々誕生するであろうし、北消防署、  
火災時の消火用水には、事欠かない上、市民  
の眼は、川面に注がれ、ゴミ投棄や、立小便な  
ずる者も激減する、川が綺麗になるのではな  
か、青い柳の芽生える頃には、オリンピックに  
まよゆかぬとしても、腹の空かないボートマ  
達の白いユニフォームが、ゆきやかに、ヨットの  
通れない橋桁の間を往く。諸谷市長だ、  
絵を描いて呉れるよ。

私の夢で、スペースかつぶれた事をお詫び  
する。国際体育館外側川端に、スラリと艇庫  
並ぶ、静かな川辺に、我々が寄贈した新艇が  
数を増して、それは、それは、楽しい市民の  
水上スポーツの根拠地が出来はしないかと。  
崖は、長崎市、水面は、長崎県の所管であらう、  
あらゆるボートを、全種集めて、春秋定期戦、

是非ニキロの浦上川にて草やかにさんな  
運動も是非。陳情を早く。問題はホート  
をほないよ川の川に切りだよ！

大阪な人が銀行のO.Lが昼休みに軽く  
潜んでいる。シーマンシップを結束しよう。

少しは前進したらしいホート部。

だが、ゲルが足りない。時間が足りない。泣き。

涙の私から見れば、まだまだの感。切に。

最後に吾等がホートマンの大先輩。

青木義勇名譽教授の勲二等御褒彰を

考まつ。

長大医漕艇部も一九七三年の創設以来は四年の  
歳月が過ぎ去ろうとしている。四年間という時の流れは  
短くも長くも思われる。創部当時の夜光虫のまぶやく  
夜の海原での練習、新入生の獲得が出来ず、暗闇の  
前途を、まのあたりにつぎつぎと二年目。しかし、  
その後、新艇購入という物質的、新人の獲得という  
人材的充足、更に三年目の西医体での幸運にも、  
オープンで二位入賞を得た。しかし、これもごく薄弱な  
力であることが昨年暴露された。過去を振り返り、満足す  
るのではなく、不満を大いに言い合ひ、そこに未来を望見  
るのが青春だと思ふ。大切な事は、この現在の一瞬、一瞬  
の連続が明日をもち、未来の路を作るという認識である。  
だろう、この今を充実したものにしよう。我々は、  
ホートを選んだ。これに没入する事を選択したのでは  
ないか。このことは、非合理的であるかもしれないが、将来的に  
大いなる満足を得るだろうと確言する。何かを得よう  
すれば、一方で大なる事が必ずあるのは、当然の事だ  
ろう。漕艇部を今日の姿にまで盛り立ててこられた

先聲諸先生方の御尽力に答えるべく部員一同  
張るつもりです。出来るとだけ多くの試合に参加  
しなければならぬと思つて、これに眞の力を  
出す原動力となると考える。特にダブル艇  
ツシム艇への移行も機に決意の成果を見守  
下さい。

### 入近況報告

在オフシーズンで陸上での本力養成トレーニング  
はなっています。午後五時迄の講義終了後、約二時間  
のトレーニングをし、主な内容は次の通りです。  
ランニング五キロ、階段駆け上がり百段×十回  
ウエイトトレーニング、スクワット、ベンチプレス  
腹筋、背筋、腕立て、ポンプ、等。  
に四日のトレーニングです。  
艇庫・艇・オイルの状況  
在の艇庫は初期の青写真と異なった構造で建てられた  
使用上非常に不便を感じています。今、シングル艇から

ダブル艇が4艇、シングルスカルの2艇あり、まず入りきれず  
ダブル艇が1艇野ざらしの状態です。今迄、オイルも艇庫に  
入れていたが、これも無理な状態となり艇庫の横にオイル  
の収納庫を建造中です。これが完成すると、十セット(四十本)  
程度の収容が可能となり予定です。オイルも値上がりして  
高価(一リットル十円)な為、我々も大切に使用管理してい  
ますが、練習場所が海もあり、為、金属部品の腐蝕が激しく  
注意して塗装しなおしても、故障損壊が絶えず交換を  
要する部品がかなりあるのが実情です。  
或も意味を消滅せ、年間一セット平均で石打する為、  
毎年一セット程度の補充が必要とす。現在二セットと  
二本有り、まずが試合用には一セットしか使用出来  
ない為、二本の補充を大急ぎに依頼し、別に我々が注文  
して4月のシーズン開幕までに試合に使え、オイルも  
三セットそろえたいと思つております。





前原洋二

今年でホート部も四年目に当たり部員もふえて、非常に喜ぶべきことである。小生は三年目に当る年度に入部して、田川さん、丹羽さん、朝戸さん、早田さんら四人の学友を見て、長大には色々な人がいるものだと思ひました。

小生、ぼろ分したから現在留年入候補であり、ぼろ当確である。二年が入学のときホート部に入った。根性、さうホートの精神で来年度の行事、死鳥のこどく、青空高く舞うのこどく、巨くぼ不滅だ。籠はたお不滅ののだ。それにしてモ学友の人達が皆たどクターに存してよか。たです。

今年のホート部の盛大ニニース

医進2年 小村三代治

一、学部四年の先輩達が首を購れてお医者様になつたこと  
二、丸山と藤本、山口と接近したし、スオガと、き、それ以後の試合に對する試合は、士氣を高めるには、格好の試合だつた

- 三、県内の大会で入賞を二回果たした
- 四、新しくツングルスカルが入、た、初乗りの丹羽さんの自前の愛艇だが、丹羽さん、バツ千姿の勇しいボートマン
- 五、西匠の腕相模で、他を断然リード
- 六、バザールを盛大祭に開いたが、酒代を踏みたおされることしばしば



あり。終つてはじめて我れに帰り、  
 の中に別の湯い血が流れてゐる。  
 さん存時に妙にすがすがしい気がする。  
 しん存うら下も最初の卒業を送り出  
 並々存らぬ若舟により現在先輩方の  
 があると言つてゐる。今では船庫の片隅  
 初に使つていた船。僕たちが入つた当  
 時、水がもつた。今、新しい船庫  
 た具合で漕いでいた。今、新しい船庫  
 煉手しと並んでゐる。今、新しい船庫  
 くたり、一つずつ年が依りゆくごとく  
 浜名がめいっつられ、今、大きい躍進し  
 さん存の手で、息の長いうらづに  
 いものだ。

子マ川の釣

医造二年 井上健一郎

あよそ子マ川では釣れる魚といえ  
 ば、アキマス、コチ、チヌ、アサギ、アサメ、  
 アラカブ、メバル、アサメ、アサメ、アサメ、  
 又は、夏、チヌ、アサメ、アサメ、アサメ、  
 時である。キヌは水深から釣るが、  
 いのちも岸道が、アサメ、アサメ、アサメ、  
 釣る。アサメ、アサメ、アサメ、アサメ、  
 島の間付道。アサメ、アサメ、アサメ、  
 常に多ある。アサメ、アサメ、アサメ、  
 大に、離れ、アサメ、アサメ、アサメ、  
 は、ソノ類のほうは、アサメ、アサメ、  
 良型、アサメ、アサメ、アサメ、アサメ、  
 成績が、アサメ、アサメ、アサメ、アサメ、  
 艇庫の、アサメ、アサメ、アサメ、アサメ、  
 最も、アサメ、アサメ、アサメ、アサメ、  
 最も、アサメ、アサメ、アサメ、アサメ、





創刊号によせて

医進一年

谷川宗生

何がつらいあれほどつらい人ポツ  
 はない。誰だ、あんなに心をひかれ  
 ようない。映写会をやったのは？  
 言いたいののはあの映写会がなかつたら  
 私決してボート部には入ってないな  
 つたといふことである。あれがなかつ  
 以上は飲むたむにはくたさうし  
 しかしあのま酒はうまかただうし  
 あの単なるうまさでたまさかた私もお  
 ろかであつた。また飲みたい幼い頃  
 からの夢だ。たさいクリングも実現で  
 きたであらう。後悔は先に立たぬ。  
 確かにフィルムで見た通り、漕いでい  
 る時へただし、ス中、合宿中は何ぞ  
 くゝの気分は素暗しいものである。あ  
 の感じをだれか多くの人に知ってもら  
 も海は素敵である。第三者にボートを  
 っている私に対して疑惑のまなざし

運を向ける人も素暗しさを知らな  
 わい。そう思うものである。  
 私に初めは思つた時に自分だけ  
 船に乗り込む時の自分だけが漕ぐ  
 の勢まじさ。初めて他人の前で漕ぐ  
 心の高ぶり。スタート地点に近づ  
 につれそれが恐怖にとつて代わつて  
 ゆく。ヨイへおそろしさの象徴  
 スタートへまないたの上の鯉の心境  
 あとの事は記憶にない。ただ恥かし  
 くもスタートを二回ははずしたことを  
 覚えていゝる。  
 来年度は一年生を少なくとも五人は  
 入れたいものである。そして私は言  
 うのである。「酒飲めよ、軟弱やな  
 家まで連れて行ってやるからな。」  
 やベンチで45kgも上げたらんとか軟  
 弱やな、俺達を見よ。」と。  
 来年こそは頑張ろう。」と。

追伸  
 最初のコンパでビールコップ半分

で、ぼくのめません。しといっている  
Nがあれほどのしよちゅう飲みの  
んでくれになるとは、ボート部は偉天  
である。

ボートを漕いで

医進一年

難波裕幸

今の学生気質として受験勉強でま  
調心のためか、競争心が強く他人との協  
部内ではそんな傾向が強いので、医学  
だろ。うか。ボートを漕いで連帯の中  
る。自分のためより五人のクルーを  
人がみんぱい。他の四人もそれに合  
せてがんばる。一人が怠けると他の四  
ん。るの。だ。だから自分一人の気合

が試合を大きく左右する。そんな点  
から考えるとボートに適した性格を  
持つ者と不適な性格の者がいると言  
って、悪いのではありませんか。俺  
は不適な方かもしれないが、そんな  
性格に甘んじてはいられない。とい  
うのはボートに不適な性格とは人生  
において、その荒波をうまく乗り切  
ることもできない性格と同じだと思  
うから。だから努力により、いくら  
かでもがッツを身につけることがで  
きたら、大きな収穫だと思おう。  
話が抽象的になりすぎたので、こ  
で、今後の新入部員と部外者のため  
に、コペルニクスの思考の転換を行  
今年、合宿の時までの話題も、捨  
てみよう。四月にボート部に入部し  
て、激しい練習で足腰が痛み、一週  
上もまともな歩幅がでかすぎず、そ  
の時初めて、足腰は痛くなく、た  
もまだ二年生の体力に及ばず、同じ量

の練習をしても先にバテ、息はせいぜ  
い。七月に入りだんだん体力が追いつ  
いてきたもののまだ二年生にはかなわ  
ないまま合宿へと臨海研究所へ。二年  
生に合宿はつらいぞと脅迫されて、合宿  
うなることかと不安感を覚えた。合宿  
では何といても食事当番が一年は多  
い。食後の血洗いがあんなに辛いのは  
日中の練習のせい。そのうち蚊に追  
いかけられて血洗いどころではない。  
あそここの蚊はズボンの上からでも勇敢  
にさしてくる。こんな時どうしてボ  
ト部には食当をしてくれる女の子がい  
ないのかとしみじみ思う。食事の後に  
まつが終わると寝るまでにちよつと間  
があるが、その時には現代学生の実状  
が露骨にあらわれる。世間一般では、  
現代の学生を三ボケ学生と呼ぶとい  
う。即ち、テレビボケ、マンガボケ、エロ  
ボケを三ボケというのだ。それ  
がその時間のボート部連を見てい  
る。まさにはびたりあてはまるのだ。就寝  
は日中の練習で疲れているせい。案外

何事もなく早く寝入る。しかし朝方  
うつつらうつつらして、突如とし  
て、ピツッ430に落とせ。と、か  
ルを合わせて、と、かいう声か聞え  
るのである。あ然として声かした方を  
見ると、なんと医進一年十三組の  
が熱睡している。この熱心さ、彼は  
眠りながらもボートをピツッ40前校  
で漕いでいる夢を見て、いるらしい。  
そしてあまりにもピツッが速すぎて  
思わぬ大きな声で叫んでも、もうら  
い。へ、本人が起きてからさうい  
も何も覚えていない。か、それら、彼  
そが今後のボート部を、なう人物に  
なるのではないかと思う。こんな事  
が合宿中のおもしろい話だ。が、実  
際練習はつらかった。そのため、西  
体で負けた時は、くやしかった。皆  
来年こそは、と思つた。違、いや、  
ボート部は、今後ますます輝やかしく  
発展していくと思つた。俺もボート部  
で、良き先輩、良き同輩に恵まれてよ  
かったと思つた。

私とホート部

医進二年 水谷明正

僕が最初このクラブに入ったのは、一年の四月の終わり頃で、僕が一番最後であつたように思う。入った動機としては、ホートにあひがれをいだき、海の上をスイスイとオールど遊ぶのは、どんなにすばらしいことだろうと思つたからである。ところが体力かういつてみれば、ついでにやけずランニングでも先輩にもあいつけないという始末だつたのである。そうして自分のなせけなさを感ぜると同時に、このクラブではやめていけないと思ひやめてしまつた。それこそその年の西医体に行かへかつたのであるが、好成績を納めたという事とで、後で行かへなかつたことと、残念に思つた。それから三ヶ月余りのブランクがあつた。自分としては暇をもて余し、何かクラブに入らねばと思ひながら、何も入らずぶらぶらして、たまたま、田中さんのすすめもあつて、もう一度このクラブに入つておつて、

よう、と十月の末頃再び入部したのである。しかし、みんには本當に申し分けないと思つて、その水かうは、春合宿、夏合宿、西医体、それに数々の試合を経たが、合宿では運動の試合も、試合では次第に汚名をばが、あるし、試合では、今年、ホート部、といつて、は有意義な一年であつたと思つて、ついでに、かし問題、は、い、ろ、う、残つて、いる、の、ど、し、て、み、ん、な、ど、力、を、合、わ、せ、て、一、つ、つ、解、決、し、て、い、き、たい、も、の、だ、と、思、う。

メンバー	A	B	C
	C 田中(精)	C 田中(精)	C 江崎
	S 小倉	S 成松	S 難波
	S 井上	S 出口	S 谷川
	2 村山	2 前原	2 堤
	B 小村	B 水谷	B 田中(直)
決勝順位	1 琴海町艇友会 A. 4.04.7		
	2 長大医学部 A 4.07.8		
	3 長大 A 4.10.9.		尚 Bクルー準決勝落ち
	4. 艇友会 B 4.14.8		Cクルー予選落ち

<西日本医科学学生総合体育大会> 7月26.7日. 於宮島

メンバー (対抗)	(Open) A	B
C 田中(精)	C 田中(精)	C 堤
S 前原	S 成松	S 難波
S 井上	S 出口	S 谷川
2 村山	2 小倉	2 田中
B 小村	B 水谷	B 江崎
順位. 対抗準決勝落ち. 3.57.8.	Open A. 準決勝落ち.	Open B 予選落ち.

<宮城杯争奪>

メンバー	A	B	C
	C 成松	C 水谷	C 江崎
	S 出口	S 小倉	S 前原
	3 井上	3 谷川	3 田川(O.B)
	2 前原	2 小村	2 田中(精)
	B 村山	B 難波	B 田中(直)
決勝	1. 園漕会		
	2. 大村園芸高校		
	3. 長大医 A		
	4. 佐世保工専 A		
	5. " C		

	身長	体重	胸圍	肺活量	一利率	握力		背筋力
						L	R	
出口	177 <sub>cm</sub>	72.5 <sub>kg</sub>	92.0 <sub>cm</sub>	5250 <sub>cc</sub>	88%	55 <sub>kg</sub>	61	144
田中	176	70.5	89.0	4520	96	42	45	124
梶	174	60.5	89.0	4960	88	46	51	123
井上	180	76.5	95.5	6500	90	50	57	145
小村	174	68.0	91.0	5100	93	52	54	140
小倉	175	60.0	83.5	5120	95	44	45	120
水谷	163	58.0	86.4	4340	88	44	45	112
成松	166	55.0	84.5	4320	96	48	52	127
前原	172	75.0						
村山	168	67.5						
谷川	175	63.5						
灘波	173	64.0						
田中	170	67.5						
江崎	170	58.0						

1974年度成績.

<九州山口医科学学生体育大会> 5月3日. 於大隅湖

出場メンバー (対抗)

(Open)

C	成松元治	2年	C	水谷明正	2
S	出口正巳	3	S	小倉猛	2
3	井上健一郎	2	3	村山晋	2
2	小村三代治	2	2	前原洋二	2
B	田中精一	5	B	田中直樹	1.

順位.

1	熊本大学	3.48.6	1.	熊本大学	4.18.1
2	山口 "	3.59.0 (3)	2.	"	4.20.1 (1/2)
3	長崎 "	4.01.2 (1/2)	3.	長崎 "	4.22.8 (1/2)

昭和51年度長大医学部漕艇部関係者名簿（五十音順）

卒業年度

住所

氏名	卒業年度	所属	住所
朝戸須江天	S49	東京女子医科大学消化器センター	千葉県八千代市八千代台西八丁目1-1
阿部義治	S15	開業	長崎市光町18-14
石橋盟士	S30	開業	中園町22-17
垣山六二	S3	開業	葉山町286-57
片峰大助	S14	熱研寄生虫学教授	船大工町2-15
木谷郁博	S30	開業	大浦町8-16
清水武	S30	原研生理助教授	滑石町26-3
城谷勝明	S20	開業	諏訪町6-23
瀬戸信二	S49	長大医学部第3内科	西彼杵郡時津町浦郷
早田篤	S49	小兒科	長崎市石神町14-58
高木聡一郎	S20	開業	今博多町37



高久 功

東北大

長大医学部眼科学教授

長崎市本尾町4-15

田川 段一郎

S7

開業

白鳥町7-20

田川 泰

S49

佐世保市民総合病院 外科

同病院内 独身寮

田中 敏

S15

開業

長崎市 住吉町3-11

富海 五郎

S49

岡山 大脳研

岡山市 東古松南町4-41

内藤 芳篤

S28

長大医解剖学第2教室 教授

長崎市中川町130 長大宿舍2

中野 文耕

S49

長崎市民病院 外科

丹羽 正美

S49

長大医第2薬理

辻町 517

野崎 公紘

S48

浜崎 元

S5

開業

出来大工町 70

冬野 誠三

S47

長大医第2内科

松本 惠一郎

S48

青木義勇	吉本雅昭	山口邦夫	森俊介	村田晨六	村上文也	牟田義男	牟田春一	宮城重信	峰雅宝	光藤一枝	馬渡一雄
S6	S47	S14	S47	S14	S20	S14	S9	T14	S48	S49	S49
長大医名誉教授	佐世保市民総合病院	開業	長大医公衆衛生学教室	"	"	"	"	開業	長大医第3内科	国立長崎中央病院小児科	長大医第3内科
西山町 1-1-350	"	葉山町 286-1-30	"	平野町 22-1-21	平野町 1-1-25	矢上町 222	万屋町 5-1-17	築町 3-1-1	"	"	長崎市大手町 407-1-24

小村 三代治 進II

長崎市音無町11-3 森川方

成松 元治 "

中園町16-7 柴田方

前原 洋二 "

石神町34-3 今村方

水谷 明正 "

三芳町12-3 高橋方

村山 晋 "

油木町

江崎 宏典 進I

錦町633-4 山口方

田中 直樹 "

住吉町3-11

谷川 宗生 "

江平町287-4

難波 裕幸 "

三芳町7-18 山下方

現役部員（昭和51年2月現在）

学年

現任所

石川 治

学Ⅲ

長崎市坂本町8-4 百賀ビル106号

川口 昭男

"

中園町15-15

神田 源太

"

片瀨町1-35

田中 精一

"

泉町260 山田方

堤 健二

"

柳谷町5-13

吉良 満男

学Ⅱ

泉町260 山田方

伊藤 文生

学Ⅰ

昭和町ソニビル内

出口 正己

"

泉町528

井上 健一郎

進Ⅱ

岩屋町511

小倉 猛

"

清水町12-6 清川方

1976年度レース日程

4月末	九州朝日レガッタ	於河内野水池	シエルフォア
5月初	九州山口医科学生 大会(漕艇部門)	於長崎形上漕艇場	シエルフォア
6月	長崎県漕艇選手権	〃	タックルフォア
7月末	西日本医科学生 総合体育大会	於瀬田(京都)	タックルフォア
9月初	九州学生漕艇 選手権 新人戦	未定	シエルフォア
11月	宮城杯争奪戦	於形上漕艇場	タックルフォア

編集後記

今回、斯様に医漕艇部誌を企画、発行致しました。

茨山の素晴らしい原稿を寄せられたにもかかわらず、オール持つ手にその編集は難しく、最初の思惑より不満足なものになりました。この部誌が、再建されて、また日か浅い医漕艇部の目に見える基礎となり、さらに諸先輩の思い出を綴る場になる事を願って、本誌をお届け致します。

△田中△